

— 臨床 —

下顎第2大臼歯に双生歯と含歯性嚢胞を伴う

癒合歯が同時に発生した1例

高山裕司, 武藤祐一, 松井 宏

労働者健康安全機構

新潟労災病院歯科口腔外科 (主任: 武藤祐一部長)

Simultaneous occurrence of geminated and fused teeth with dentigerous cyst on the lower second molar; a case report

Yuji Takayama, Yuuichi Mutoh, Hiroshi Matsui

Department of Oral-Maxillofacial Surgery, Japan Organization of Occupational Health and Safety Niigata-Rosai Hospital

(Chief: Dr. Yuuichi Mutoh)

令和2年6月3日受付 令和2年7月17日受理

Key words : 双生歯 (Geminated Teeth) 過剰歯 (Supernumerary Teeth) 癒合歯 (Fused teeth) 含歯性嚢胞 (Dentigerous Cyst)

Abstract

Geminated teeth are distinguished from fused teeth, in which dentin and the pulp cavity are shared with normal teeth. Normal and supernumerary teeth are connected, and geminated and fused teeth are similarly related. Herein, we report a case of simultaneous occurrence of geminated and fused teeth with a dentigerous cyst on the left lower second molar.

A 16-year-old male patient presented with the chief complaint of swelling of the left mandible. A previous dentist had found no abnormality in the left mandibular second molar, but the patient was referred to our department for swelling of the left mandible and an X-ray examination of the mandible. In oral findings, a suspicious supernumerary tooth was fused on the buccal side of the left mandibular second molar. X-ray findings suggested the presence of supernumerary teeth on the buccal side of the left lower second molar, impacted teeth, and cystic lesions on the apex. In addition, an oval transmission image, which was suspected to be the left mandibular third molar, was confirmed in an area from the dental germ to the internal area of the mandible. The patient was diagnosed with fused teeth and a cystic lesion consisting of an impacted lower third molar on the left lower second molar. Exodontic extraction and excision of the cyst were performed under general anesthesia. Postoperative histopathological diagnosis suggested fusion of a geminated supernumerary tooth and the left mandibular third molar to the left mandibular second molar, with concomitant development of a dentigerous cyst. This case is an interesting and rare example of simultaneous occurrence of geminated and fused teeth with a dentigerous cyst on the left lower second molar.

抄録

双生歯は正常歯同士が象牙質または歯髄腔などの歯の成分を共有する癒合歯とは区別されていて、正常歯と過剰歯または過剰歯同士の結合とされ、双生歯と癒合歯が同時に発生することはまれである。今回、われわれは下顎左側第2大臼歯に双生歯と含歯性嚢胞を伴う癒合歯が同時に発生した1例を経験したので報告する。

症例, 16歳, 男性。主訴, 下顎左側の腫脹。現病歴, 今までに歯科医院等で下顎左側第2大臼歯の異常を指摘されたことはなかった。今回, 下顎左側の腫脹および同部のX線透過像を指摘され当科紹介となった。口腔内所見では, 下顎左側第2大臼歯頰側に過剰歯と思われる歯が結合し, X線所見では, 下顎左側第2大臼歯頰側に過剰歯, 根尖部

に埋伏歯と嚢胞性病変を認めた。臨床診断は下顎左側第2大臼歯部の双生歯および同部に埋伏した下顎左側第3大臼歯からなる嚢胞性病変とし、全身麻酔下で抜歯術および嚢胞摘出術を施行した。病理組織学的診断は、下顎左側第2大臼歯に、過剰歯が癒合した双生歯と含菌性嚢胞を伴う下顎第3大臼歯の癒合を併発したものであった。下顎左側第2大臼歯に双生歯と含菌性嚢胞を伴う癒合歯が同時に発生した症例はまれであり貴重であると考えられた。

【緒 言】

複数の歯胚からなる歯の形態異常には、癒着歯、癒合歯および双生歯があり、いずれも歯の結合がみられるが、合併している組織とその歯種により分類される。正常歯胚同士が象牙質や歯髓腔などの歯の成分を共有するものは癒合歯と、正常歯と過剰歯が結合するものは双生歯と定義されており¹⁾、われわれが渉猟しえた過去の報告例を見ても、双生歯と癒合歯が同時に発生するだけでなく、癒合歯に含菌性嚢胞を同時に認める症例は非常にまれである。

今回、われわれは下顎左側第2大臼歯に双生歯と含菌性嚢胞を伴う癒合歯が同時に発生した1例を経験したので報告する。

【症 例】

患者：16歳、男性。

初診日：2018年9月。

主訴：下顎左側の腫脹。

既往歴：特記事項なし。

現病歴：今までに歯科医院や検診等で下顎左側第2大臼歯部の異常を指摘されたことはなかった。2018年7月ごろから下顎左側の腫脹を自覚したため、近医歯科を受診。同部にX線透過像を指摘されて当科紹介となった。

現症：

全身所見：体格中等度、栄養状態に問題なかった。

口腔外所見：顔貌は左右対称、左側下顎角部の皮膚色に異常所見はなかった。

口腔内所見：下顎左側臼歯部頬側にびまん性の腫脹が認められ、下顎左側第2大臼歯近心頬側に過剰歯様の突起物があり、その歯冠は歯頸部付近で結合し下顎左側第1大臼歯遠心歯間鼓形空隙に入り込んでいた。下顎左側第2乳臼歯は晩期残存状態であった(写真1)。

画像所見：パノラマX線所見では、下顎左側第2大臼歯根尖部に歯様の不透過像あり、同部から類円形の透過像が認められた。下顎左側第2小白歯は欠損していた(写真2)。

CT所見では、下顎左側第2大臼歯頬側に過剰歯(写真3A)と思われる歯が認められ、同歯の歯冠は下顎左側第2大臼歯とは別々に存在し、歯根部で下顎左側第2大臼歯と結合していた。また、下顎左側第2大臼歯根尖

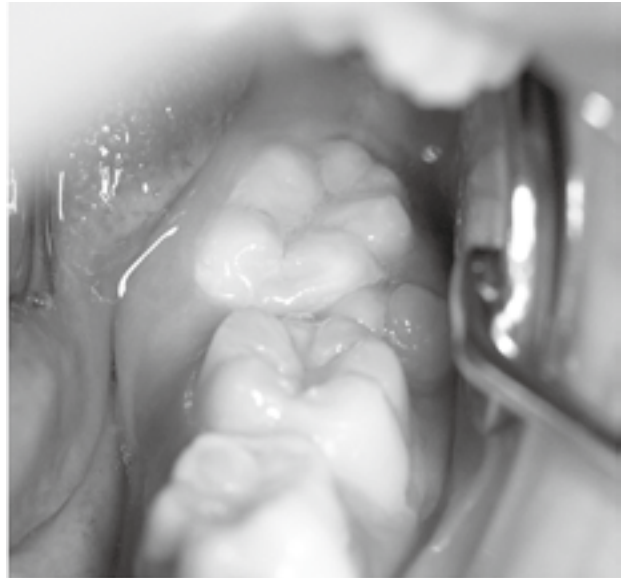


写真1

初診時口腔内写真：下顎左側第2大臼歯近心頬側に過剰歯様突起物が認められた。

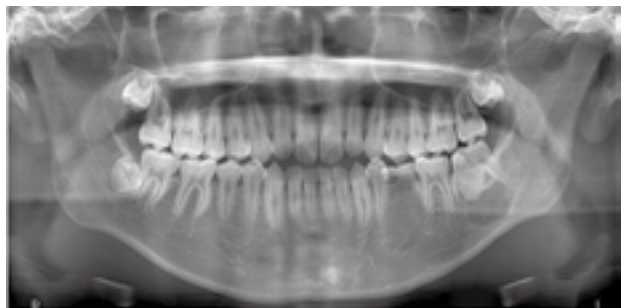


写真2

初診時パノラマX線写真：下顎左側第2大臼歯根尖部に嚢胞様透過像あり、下顎左側第2小白歯は欠損していた。

部には下顎左側第3大臼歯と思われる歯様構造物があり(写真3B, C)、下顎左側第3大臼歯と思われる歯から下顎骨内にかけて類円形の透過像が認められた(写真3D)。臨床診断：下顎左側第2大臼歯の双生歯および同部に埋伏した下顎左側第3大臼歯からなる嚢胞性病変。処置および経過：

臨床所見および画像所見より上記と診断し、全身麻酔下で嚢胞摘出術および抜歯術を施行した。近心頬側の過剰歯と思われる部分が下顎左側第1大臼歯遠心歯間鼓形空隙に入り込んでいたため(写真4)、一塊での摘出は不可能と判断し、病変である下顎左側第2大臼歯歯冠中